

36. 解答 d

- a. × : cT3N0M0 stage II の治療としては手術が可能であれば第一選択は(術前 CTx+)手術である。CRT (化学放射線療法) が選択されることも多いがその場合 concurrent (同時併用)が一般的である。
- b. × : 化学療法単独での治療は推奨されていない。術前に CTx を施行する場合があるが薬剤は一般的に CDDP+5FU が使用される。
- c. × : 放射線治療単独での治療成績は悪く根治治療としては適さない。
- d. ○ : Mt-Lt 領域の治療の場合、照射野内に心臓が含まれる範囲が広く晩発性合併症として心外膜炎がおきて臨床的に心嚢液貯留がおこる可能性がある。
- e. × : CRT 施行時の放射線治療は通常分割照射が標準的治療である。

37. 解答 e

a.b.c.d. ○ :

腹部 CT 所見からは周囲脈管への浸潤をきたした局所進行膵頭部がんの症例と診断され、恐らく臨床症状として閉塞性黄疸を伴っていると予想される。

切除不能な膵がんに対しては減黄術による胆道閉塞による症状の緩和が有益であり、減黄が得られたのち GEM(ゲムシタビン)単独治療、GEM を使用した CRT が選択されるのが一般的である。

GEM 以前は 5FU 併用の放射線治療が標準的に行われていた。

- e. × : 切除不能な膵がんであるので e の根治的切除術は選択されない。

38. 解答 c, d

- a. △ : 胆管癌には根治治療としては手術のみが有効。切除不能な進行癌や手術と組み合わせた役割として化学放射線療法は有効であるが根治性は乏しい。
- b. × : 膵臓癌は手術可能例が 10%程度と少ないが手術の際に根治性を高めるため、もしくは切除不能であった場合に局所の治療効果を高めるために術中照射が行われる場合がある。切除後は 20-25Gy、切除不能例には 25-30Gy 程度の線量が投与される場合が多い。組織内照射は通常行われない。
- c. ○ : 肝臓癌の治療には外科療法、穿刺療法 (PEIT, RFA)、IVR のほか放射線治療計画ガイドラインに記載があるとおり有効な局所効果が期待できる治療法として定位放射線治療も挙げられるが、残念ながら第 1 版肝癌診療ガイドラインには記載されていない。切除不能で IVR 施行が不可能な場合に定位放射線治療が行われることがあるが施行に際しては被照射肝体積・肝予備能などで適応を判断する必要がある。
- d. ○ : 膵臓癌に対する放射線治療では十二指腸などの正常臓器への照射線量を減らすための工夫が必要であり 3次元原体照射法 (3DCRT) が用いられる。
- e. × : 直腸癌の術中照射は局所の根治性を高めるために行われるが剥離断端の状況によっ

て照射線量が異なる。顕微鏡レベルでの残存がある場合は 10-15Gy、肉眼的に残存がある場合は 15-20Gy が選択されることが多い。

39. 解答 d

a.b.c. × :

CRT で根治切除術と同等の局所制御率が得られることと、肛門温存が期待できるため現在では標準治療は根治的 CRT である。標準治療としては放射線治療と併用して 5-FU+MMC が使用される。5-FU+CDDP では無病生存期間の延長は得られていない。CRT での制御率は比較的高く局所制御率は 70-80%、5 年無病生存は 65% 程度と報告されている。

d. ○ : 歯状線より肛側に発生した癌では鼠径・外腸骨領域へのリンパ節転移が多い。

e. × : 肛門管癌は移行上皮帯に発生する癌さで扁平上皮癌が最も多いが腺癌など他の組織型もみられる。

40. 解答 e

a. × : セミノーマの後発年齢は 10 歳以下の小児と 20~30 歳の 2 相性がある。

b. × : 前立腺癌の骨転移ではホルモン抵抗性となっている場合が多く、治療法としてはビスホスホネート製剤のゾメタ、放射線治療（外照射）、化学療法（ドセタキセル）などが挙げられる。び慢性にある多発性骨転移でペインコントロールが不良な症例では Sr-89 が効果的な場合があるが、骨転移に対する第一選択にはならない。

c. × : 尿管癌のリンパ節転移例に対する治療は化学療法が主体となる。

d. × : 表在膀胱癌の治療としては TUR-Bt が第一選択として行われる。

e. ○ : 腎癌が放射線抵抗性であることは周知の事実であり X 線治療では十分な治療効果を期待できない。線量の集中性に優れる粒子線治療では良好な局所効果が期待できる。治療としては原発巣の積極的摘除術が標準的に行われることが多い。最近になり分子標的治療薬としてソラフェニブ、スニチニブが保険適応となり治療効果が期待されている。

以上、解答 36~40 は中村道子会員（自治医科大学）